

# 関東能開大における学生の自主的活動 ～学園祭の取り組みを中心として～ その2 実践編

関東ポリテクカレッジ  
(関東職業能力開発大学校)

藤田秀樹・中嶋俊一・江島信之・菅野金一・久保山寿一  
池田愛彦・宇都宮直樹・神野 豊・山下 忠・大澤 剛  
鈴木 章・大久保欣哉・伊藤昌樹

## 1. はじめに

前号では、主に自治会の発足した経緯、自治会の運営、サークル活動、恵風祭の企画について報告をした。

本年4月、自治会として自治会の役員、組織について専門課程、応用課程の学生が共に協力して、新役員の選出を行い、これにより新たに今年度の関東能開大としての学生自治会が、名実共に活動を始めた。

本稿は、当校学生自治会の活発な行動力と企画力により、関東能開大として第1回目の学園祭（恵風祭）がどのように実施されたかを紹介するとともに、実施運営上の問題点の整理をしながら、今後の自治会活動についても述べることにする。

## 2. 恵風祭の紹介

### 2.1 全体企画の紹介

#### (1) フードファイター

昨年度の恵風祭最大のイベントがこの催しである。この催しには今回は全国大食い選手権でテレビチャンピオンとなった選手を含む3名のフードファイターを学生は招待した。会場は屋外メインステージの予定であったが、当日あいにく雨となり、急遽応用課程の建築棟に舞台を作り開くことになった。

競技会場には当校自治会の学園祭ホームページをみて、TBSテレビが取材に来校した。観客は遠くは大阪や石川から集まり、競技舞台の前は600名を超える人々で埋まった。恵風祭当日は小山駅前から大

学校までスクールバスの臨時便が出ているが、バスに乗り切れない人がたくさん出たという、当校始めて以来の観客である。

実際の競技では、テレビチャンピオンの選手は50個のショートケーキを11分で飲み込むという、驚くべき胃袋を見せてくれた。当校の学生や職員も一緒に競技に参加したが、食べることでできたケーキはせいぜい6個止まりである。大勢の観客が集まった競技の様子を写真1、2に示す。



写真1 競技会場の人・人・人



写真2 フードファイターの豪快な食欲

## (2) 関東武蔵太鼓

東京武蔵野にお住まいの方々による、勇壮な太鼓の演奏である。今回は8名の方が朝かなり早く太鼓を車に積んで駆けつけての参加である。大きな太鼓の響きが学内にとどろき、実演されている方々の額に大粒の汗が光る。関東武蔵太鼓の演奏を写真3に示す。太鼓の乱れ打ちにメインステージ背景に学生が作った「恵風祭」の文字がよく似合う。

## (3) マジックショー

マジックの楽しみを見せてくださるのが、非常勤講師（法学）の小山先生である。ご自分でマジックを練習されさまざまな施設でのイベントにボランティアとして参加されている。舞台は建築の実習棟で、多くの観客の前で黒いスーツ、白いズボン、山高帽といういでたちで登場し、颯爽とマジックを学生たちの前で披露された。マジックの様子を写真4に示す。大がかりなマジックではないがとても楽しいひとときである。

鑑賞している学生の談は、「小山先生のマジックは時々種が見えることがあり、楽しいねー。」とのことである。

## (4) 版画展

学生が文化的な息吹も学園祭で伝えようと企画したのが、この版画展である。地元の高校の先生で版画家としても数々の賞を受賞されている方に出演をお願いした。この先生の高校からは例年学生が当校に入学している。開催場所は図書室で、かなり広いスペースに大物を含めて約30点の展示で、観覧者も多数訪れ大変好評であった。写真5に版画展の様子を示す。

## (5) 学生の模擬店

例年学生は各科1張りのテントに模擬店を出す。内容はさまざま、アンズ飴、牛丼、綿アメ、ラーメン、たこ焼き、おでん、豚汁、フランクフルトなどを200円程度の値段で販売する。模擬店風景を写真6,7に示す。

模擬店には食べ物のみでなく、学生が作った作品の販売もある。アルミでこまや灰皿作りを実演し販売した。アルミの灰皿は好評で、売り切れてしまった。射出成形で作った貯金箱も即売されていたが、



写真3 関東武蔵太鼓の実演



写真4 小山先生のマジックショー



写真5 版画展示作品

売れ行きはあまりよくなく学生はがっかりである。

学生の模擬店に混じって職員もカレーライスと焼き芋を作り販売した。カレーライスには米30kgを炊き、値段も手頃で大変好評であった。

## 2.2 各科企画の紹介

### (1) 生産技術科

#### ① とりあえず打倒100円ショップ!

恵風祭の一週間ほど前になると毎年2年生の展示担当者がやってくる、「先生、展示用の製品を作り



写真6 模擬店



写真8 マウス型貯金箱



写真7 自治会焼きそば店



写真9 灯油缶自動搬送車

たいんですけど……」。過去に総合制作実習で作られてきた金型がいくつかある。例えば貯金箱（写真8）とかヘアブラシとか……最近では100円ショップでよく見かけるものである。一緒に実習場へ行き展示製品を決定する。金型に修正を施してから、成形機に取り付け成形に入る。例年大体50～60個は製作して学園祭の日に売り出す。値段のほうは、学園祭で市価をつけるわけにもいかず、はじめは50円ぐらいから、40円、これでもだめなら20円……えい、もってけ泥棒！ それでも無くならない。近所の子どもなんかは、「私この色嫌い」とか言う始末。確かに1個の材料費は安いのだが、あまりお客さんに重宝されて売れていった覚えはない。

しかしながらここで強調したいのは、この型を作るには高度な技術力と技能、そしてそれ相応の時間が必要であるということである。過去の卒業生の努力と忍耐と試行錯誤のうえに成り立っているものなのである（近所の子どもに値切られる覚えはない！）。

## ② 表札づくり

表札の材質は、木片とプラスチックとした。木片は建築系の廃材を利用し、最初にガス溶接機であぶり黒く色をつけ、それに名前を彫りニスを塗った。プラスチックも実習で余った材料を使用し表面にさまざまな色を塗った後、マシニングセンターで彫り込んだ。この彫り込みは試行錯誤しながら一様の切削条件を探り加工したものである。しかし結果的に評判は良くなかったが、学生それぞれが充実感を持たったようである。

## (2) 制御技術科

総合制作実習の成果物の展示、デモ運転を行った。成果物は、他科の成果物に比べ動きがあり、見ていて大変面白いのだが、その分展示会場でのセッティング、調整に手間取っていたようだ。特に昨年までの成果物の整備（修理）、説明準備には苦労したようで、総合制作実習報告書や教科書を引っ張り出して調べ物をしている学生の姿が目についた。

以下に今回の主な展示物を示す。

○エレベータ模型

主にPLCプログラミング実習の負荷装置として製作したもの。

○自動搬送車

灯油缶の校内搬送用に製作したもの（写真9）。

○カンコロジーロボット

○トレーニングマシン 等

学生は来場者の方にわかりやすく説明することに四苦八苦していたが、良い経験になったことと思う。

(3) 建築科：机、椅子の製作（写真10）

学生の有志で毎年恒例になっている家具づくりを行っている。今回出品した作品はシーソー、ガーデニングテーブル・チェア、花台、犬小屋など学生のアイデアがいっぱいつまったものばかりである。学生は授業の終わった放課後から毎日コツコツと学園祭前日まで製作していた。学園祭当日には、ほとんどの製品が午前中に売りきれてしまい、学生達の驚いた顔が印象的であった。

学生達は創意工夫しこれらをつくりあげ、ものづくりの楽しさを実感できたと思われる。

(4) 生産機械システム技術科

精密加工応用実習で製作した一軸テーブルと製作図、標準課題としている自動選別搬送装置を各グループ別に展示した。さらに、簡易NC旋盤を使ってこま作りの実演、CADによるぬりえ教室、灰皿の展示即売、電気・電子機器実習で製作した相撲ロボットの展示とデモ走行などを行った。標準課題として製作している自動選別搬送装置（写真11）は、各グループで設計仕様に基つき工夫を凝らして設計、製作しているため、斬新なアイデアを盛り込んだ課題に仕上がった。展示担当者は、この点をアピールするために、熱弁を奮っての説明であった。

好評の灰皿は、被削性と製品重量を考慮して材質をアルミニウム合金とし、ターニングセンタで加工した。

灰皿（写真12）は全部で30個ほど製作し、学生の売り込みの効果もあり見事に完売した。この灰皿製作を通し、学生はターニングセンタの加工プログラムと加工の段取りを学び、そして製品として販売する上での加工条件の決定や製品の取扱いについても学習した。製作していた学生が加工実習の授業より



写真10 夢いっぱいのfurniture



写真11 創意工夫の自動選別搬送装置



写真12 好評だった灰皿

も生き生きしていたのが印象的であった。

(5) 建築施工システム技術科

学生は後に残るもの、「やってよかった」と思えるもの、みんなで協力してできるものをと、建築生産現場と同じ過程の企画（計画）・設計・施工を模擬経験する模型を制作展示した。

① 本館鉄骨モデル模型

身近な本館棟主構造の鉄骨モデル模型（写真13）を制作した。本館棟の設計図書等の資料を活用し、制作物を鉄骨構造学習教材として大学校に提供する

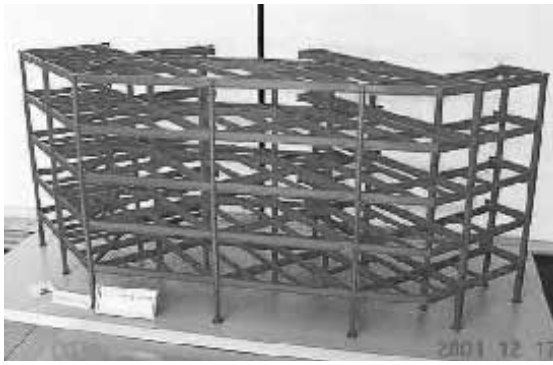


写真13 本館鉄骨モデル模型



写真14 漆喰塗り家模型

のが目的であった。本館設計図書・鉄骨工作図を読み取り，次の手順で制作された。a.各部位の施工図・部材図を作図 b.部材リスト作成（積算） c.模型作製材料発注 d.部材作製 e.部材組立て（各ピース梁，柱等） f.全体組立て（鉄骨建方）

### ② 漆喰塗り家模型（写真14）

学生が展示物の選定に試行錯誤しているとき，出逢えたのが建築専門雑誌に掲載されていた漆喰塗り家である。雑誌には写真・簡易な図面紹介しかなく，その資料から立体的に作りこむために，学生は大変努力した。学生は設計図・各詳細図の描きこみや質感を表現する材料の選択などから作り込み，トップライト，内部階段，資料には無い家具なども配置し，模型の内部が見えるように工夫した。各担当者が図面より部位を作成し，それぞれの集合体が1つの作品となる建築生産を経験した。

### ③ 木構造接合モデル模型

建築基準法が阪神淡路大震災後見直され，在来木造構法の接合部も見直された。木材ではなく透明なアクリル板を用い土台・柱・梁型を組立て，建築科

で学んだことや参考資料等をもとに，建築物の柱・梁・土台の接合状態がよくわかる模型を制作した。学生は，計画時に考えていたよりいろいろと大変であったようであるが，制約時間（通常授業外）のなか予定日時（工期内）に完成（竣工）することができた。この経験が今後の学生の大きな飛躍となることを期待したい。

## 3. 学生自治会の声

次に自治会長および自治会副会長の声を紹介する。

### 学生自治会会長 刈部 貴文（写真15）

「俺が学生自治会を変えてやる」といって早や3年が過ぎようとしている。思い返せば苦勞と挫折の連続だった。学生自治会の存在とは何か，自分たちができることは何なのか，そんなことを役員のかなでいつも考えていた。時には悔しくて涙を流し，時には仲間と衝突し，時には腹が痛くなるまで笑った。それにしても今回の恵風祭には一段と力が入った。大学校になって初年度ということもあって，仲間のやる気がかなりあった。2週間前から日付が変わるまで看板作成やステージ建設に取り組んだり，当日は学生自治会の各役員が十分な力を発揮してイベントを成功に導くことができた。何事も，俺一人では何もできない。仲間がいてはじめて成し遂げられる。仲間の大切さ，仲間のすばらしさをあらためて実感した。

同年代の若者は何かに感動して泣くことはあるだろうか。俺は恵風祭終了後，感動と達成感で涙を流した。他の仲間も一緒に泣いてくれた。この感動は携わった者でなければ味わえない。俺達を支えてくれた方々に深く感謝する。俺は貴重な経験をした最高の3年間だった。

最後に後輩へ一言『俺を抜いてみろ！』

### 学生自治会副会長 高松 美幸（写真15）

関東能開大としての初めての恵風祭は，私のなかで忘れられないイベントとなりました。今まで例を見ない大きなイベントの企画，準備…。準備には多くの時間がかかり大変だったけれど，その分たくさんの思い出を作ることができました。恵風祭当日は人，人，人！ 学生や先生方はもちろん，近所の人，

遠くから来てくださった人。小学生から年配の方まで多くの皆さんに来ていただいて、そして楽しんでもらえたと思います。学生だけの楽しみではない、地域全体が一緒に楽しめるお祭りとして、運営できました。

自治会は、私自身のなかでとても大きな存在です。自治会を通して、本当にたくさんのことを経験しました。なかでも、学園祭をはじめさまざまなイベントを、役員みんなが一丸となって運営していく一体感、そして、無事終わったときの安堵感…。こうしたことは、自治会を通してのみ味わうことができます。

関東能開大としての自治会はまだ歩き始めたばかり。ここから、また新たな伝統を築き上げていきたいと思っています。



写真15 自治会会長（右）・副会長（左）

#### 4. 今後の課題

学園祭に対する学生の意見を集約しながら、今後の運営上での課題を整理し述べたい。

##### (1) 学園祭はだれのために行うのか？

学園祭は、学生自治会ならびに学園祭実行委員が企画、運営を行うものであるが、その学園祭が狙う目的をオーソライズする時期に差し掛かっている。自分たちが内輪だけで盛り上がるためなのか、地域・一般の方との交流の場としてとらえるのかである。現在、当校の学園祭はどっちつかずの状態である。地域との接点と考えるのであれば、中心になる企画等は、十分温め考慮しておくことが大切である。

(2) 全体で楽しむには学生間の協力体制が必要  
学生の意見のなかには、一部の人たちだけが盛り上がっていたとの声が多々聞かれる。全員参加ができるように自治会中心に各科展示や企画を行っているのだが、さらなる全体参加の気運を盛り上げる活動が必要である。早い時期からのPR活動を含めての準備が大切である。

##### (3) 交通手段と警備体制

本校は小山駅から約7kmの距離で、工業団地の一角に位置している関係上、交通の便が無く例年市民の参加数はさほど多くない。今回のように企画があたると多くの参加者で駐車場の整理や警備に多くの人が割かれかねない。学生としては精いっぱいやっているのは共感できるが、施設の管理から言えば、問題があると言わざるを得ない。人が集まると起こる問題もあり、警備関連の問題がクローズアップされる。

##### (4) 教官のスタンス

本来、学生自治会は、学生の自治をもって行うべきものである。しかるに現実にはやはり教官への依存が高くなっている。あまり指導すると高校の学園祭と同じになり、学生のやる気を削いでしまう。教官が顧問として「補助」し「協力する」というスタンスを学生に十分理解させる努力が求められる。

## 5. おわりに

自治会の運営も決して楽ではない。今回の学園祭を振り返って、すべてを学生に依存することには限界を感じている。体育祭、学園祭を成功させるためには、校・教職員・自治会が三位一体となってどうあるべきかを真に考える必要がある。

今回の体育祭・学園祭は、自治会役員の「大いなる行動力」によって成功裏に幕を閉じたが、「次年度の役員はいるのかな」「企画は大丈夫なのかな」といった不安が無いわけではない。関東能開大「伝統の火」を消さないためにも学生と校・教職員の連携を今回以上に望むものである。

最後に、学生自治会の良き相談相手として自治会活動にご尽力をいただいた現ポリテクセンター埼玉の大石 賢先生に感謝の意を表したい。